

## 年末例会報告

予定されていた年末例会は、新型コロナの感染拡大により中止となりました。今年こそは開催できるように願っております。以下は、発表予定者の要旨です。

### ① 「岡山県のトンボ、2020年の成果と課題」 守安 敦

岡山県のトンボ相は、残念ながら十分解明されているとは言えません。そこで、2020年は、今までの課題を解決すべく精力的に調査しました。その結果は、機関誌「すずむし」156号にも投稿していますが、多くの発見がありました。一番は、コバネアオイトトンボの新産地発見です。産地が激減しており、全国的に絶滅が危惧されている中での35年ぶりの新産地発見は驚きでした。個体数は非常に少ないので、今後も見守っていく必要があります。トンボの生態を研究している方から、コバネアオイトトンボの羽化や産卵など詳しい情報が知りたいとの問い合わせをいただき、今後調査をしていく予定です。他には、和気町の水井颯麻さんが、ヒメサナエを見つけており、今までの分布から、かなりかけ離れていることから貴重な発見になりました。ベニイトトンボは、加門昭徳さんから情報をいただき、調査したところ児島半島の先の方までいることも分かりました。また、夏に標高の高い山の山頂で見つかることの多いミヤマサナエを高梁市で見つかったり、コサナエの新産地を多数見つけてもいます。今後の予定ですが、コサナエ属のトンボの分布調査と生態、ヒメサナエの新産地と分布調査、ミヤマサナエの避暑地調査、ベニイトトンボの分布の広がりや生態観察、オオキトンボの産地調査、モイワサナエの亜種であるヒロシマサナエやヒラサナエの産地調査などです。2021年も間違いなく新たな発見があると思います。多くの皆さんから情報をいただいたり、協力をいただいていることに感謝し、これからも岡山県のトンボを精力的に調べていきたいと思っています。

### ② 「今年は近場の昆虫を」 山地 治

2020年は年初めから新型コロナの流行で予定していた採集をあきらめざる負えなかった方も多かったのではないのでしょうか。私は加えて5月に腰痛がひどくなり（現在は小康状態です）あまり採集に行けない年になってしまいました。それでも行った採集での話。< 邑久町虫明 >

7月、若いハムシ屋さんと憩いの村近くの林道脇の湿地を調査、すごく良いものはいなかったがなにか居そうな所だった、海岸に行こうとしてネット上には存在している道を下り

始めたが本当に車が通れるのか疑問な荒れた道だった、途中分かれ道で間違えて引き返そうとしたら前日までの雨で地面がぬかるんでいてタイヤが滑り斜面を上がれなくなって1時間、なんとか元の道に帰って、地面に転がっている大きな石をどけながらようやく海岸までたどり着いた。くぼ地が大きな水溜まりになっていてゲンゴロウの一種や微小甲虫などが採集出来た。9月に訪れたときはこの水溜まりは乾いた荒地になっていてオフロードのバイクが練習をしていた。周りにはエノキやニワウルシ、アカメガシワが多く、ニワウルシには最近入ってきた外来種が多く止まっていたが、アカメガシワに付くカメムシ方は残念ながら確認できなかった。

<高梁市川上町>

山の中のお店で飼っているヤギのフン目当てで11月に行った日はうすら寒くフンの捨て場に溜まったフンをかきわけても何も出てこない、お店の方に近くのヤギを紹介してもらい行った先でも見つけることは出来なかった、次はもう少しいい時期を狙ってみよう。一頭のヤギに依存しているフン虫相というものもあるのかも知れない。この日は溪流の岩に溜まった落ち葉を押さえて沈めると浮いてくるハネカクシを採集してから帰った。以上こんな採集行をしているという話です。

### ③「岡山県美作市&兵庫県佐用町のキマダラルリツバメに関する新産地探しの考察」

末宗 安之

里山のキマダラルリツバメは古い桜がなければ棲息できないのか？という疑問があったのですが、そうではない事がわかりました。概知産地の幼虫の調査で、経験豊富な松尾泰幸氏や前田善広氏に同行する機会があり、そこで幹の直径は6~7cm程度の若い木でも、めくれ上がった樹皮の部分に幼虫を確認できました。ここで気がついたことは、幼虫が見つかる場所は、古木でも若い木でも必ずハリブトシリアゲアリの個体数が多いことが条件のようです。アリが興奮状態で密度が高く、動きが早いところを見つけると、キノカワゴケの裏側にも確認できました。また、文献のとおり、桜以外の木にもハリブトシリアゲアリがいれば棲息しているのか、調査してみました。概知産地から少し離れた丘陵地にある栗の木(直径15cm程度)が気になり、2本並んで疎林の環境なので、5月下旬に終齢幼虫を探してみました。するとまもなくこの栗の木に幼虫を確認できました。2頭が並んで葉を簡単に糸で固定し、身体を隠していました。(この糸は幼虫自らが出したものか、他の幼虫の巣を再利用したものか、判断はできませんでした)発見したところは横に伸びた枝の股の部分です。やはりハリブトシリアゲアリの動きが激しく、道がはっきりと確認できるような、個体密度の多い所を目で追っていくと発見できました。その後、松尾氏が合流し、同じ木で他にも幼虫を確認。枝が折れて、中が空洞になった部分にも隠れていました。また細い枝に節ができて、凸凹のある隠れやすい空間に見つけることができました。この栗の木で合計4頭確認しました。成虫の羽化の時期にこの産地に訪れると、斜面にある大きめの柿の木の樹上でテリ張りをするのを確認。採集しました。6月7日、午後5:30頃でした。新鮮な雄で、他に目撃した個体はいなかったもので、個体数は少ないようで

す。キマダラルリツバメの新産地については、既知産地に近く、古い桜や南西向きの手入れされた古くからの畑、栗林があり、探せば見つかる可能性があると思うところはたくさんあります。特に勝央町はまだ未記録のエリアなので、ぜひ発見してみたいエリアです。キマダラルリツバメの棲息環境の条件として、筆者は以下の環境を調査対象にしてみようと思います。

1. 古くから人の営みがあり、人為的な環境が維持され、適度に整備された環境に古木がある。(寺、神社などの古木が結果としてトラップになっている)
2. 河川の合流地に産地が多いのは、恐らく洪水などでいったん荒地地になった環境に、パイオニアで増えたアカマツや二次林に人手が加わり、疎林的な環境を核にして個体数を増やせたのではないか。
3. 現在では里山の栗林や果樹園など、人為的な環境が県北のカシワ疎林のような環境になり、特に古い栗林が今後新産地になる可能性を感じています。

## ＜倉敷昆虫同好会幹事よりの近況報告＞

★ 2020 年は、新型コロナの関係で、多くの時間フィールドに出ることになりました。yahoo (細い山道も掲載)、google (画像が非常に詳細)、国土地理院 (地形図と現在や過去の航空写真が比較できる) などの地図を駆使して、良い湿地や池を見つけては地図をコピーし、スマホのナビアプリを使って現地に行く毎日でした。航空写真で見ると、信じられないような環境のいい池だと分かるところもあって、マダラナニワトンボがいるのではないかと夢を見たりしました。コバネアオイトトンボも見つかったので、67 年間見つかっていないマダラナニワトンボも“いない”とは言い切れませんから。今、手元には調査したい場所の地図が 100 枚以上あり、これから調査に行くのが楽しみです。(守安 敦)

★ 総社市昭和地区の甲虫相調査を初めて 15 年が経過し、1600 余種を記録することができました。70 歳をすぎると体力にも限界があり、2011 年頃からは FIT による省力調査に傾きがちでした。2019 年より水生の甲虫調査も手掛け、特に池に生息する甲虫を調べてみた結果、筆者にしては初めてのゲンゴロウ類やキイロコガシラミズムシなどが記録できました。その際副産物もあり、まだ汚染されていない池にはミズカマキリ、ヒメミズカマキリ、コオイムシなど子ども時代にしか見たことがなかった虫も多く見られたことが収穫のひとつでした。これからも水生甲虫の調査も併せ、種々採集法も取り入ながら体力が続く限り、自宅周辺の甲虫相解明を続けたいと思っています。(岡本 忠)

★ 岡山県南西部のウラギンスジヒョウモンの生息地調査に取り組んでいますが、生息地のアウトラインはほぼ把握できましたので、2020 年は調査地域を変えてみました。まず調べたのが笠岡市・井原市と県境を接する広島県福山市神辺町です。岡山県側の生息地とは低山帯を挟んでいるだけで環境も類似しており、発見の可能性は高いと思っていましたが見つかりませんでした。本会員の末宗安之さんから津山市東部での目撃情報をいただき、

ここでは3カ所で採集することができました。さらに範囲を広げて東隣の勝央町も調査しましたが、残念ながら確認できませんでした。県南東部でも確実性の高い目撃情報があり、和気町を中心に探してみましたがウラギンヒョウモンばかりでした。発見できなかった3地区（神辺町、勝央町、和気町）については調査時間が不十分であったため、今年も挑戦してみようと思っています。（岡野貴司）

## ————— 倉敷市立自然史博物館の催しもの案内 —————

### ◎特別陳列「新着資料展<昆虫 前期>」

◆会期：2021年4月10日（土）～5月5日（水・祝）

◆会場：自然史博物館3階特別展示室

◆料金：通常料金

◆展示内容：

「中山一郎コレクション」（世界の昆虫2,095点）：世界中から収集されたチョウや甲虫の大型美麗種など。  
「間野幹男コレクション」（日本と世界の昆虫3,475点）：1940年代の岡山および中四国のチョウ・ガや甲虫など。

### ◎特別陳列「新着資料展<昆虫 後期>」

◆会期：2021年5月9日（日）～5月26日（水）

◆会場：自然史博物館3階特別展示室

◆料金：通常料金

◆展示内容：

「澤田博仁コレクション」（世界の昆虫約16,000点）：世界中から収集されたチョウや甲虫の大型美麗種および岡山県を中心とした日本産のさまざまな昆虫標本。

### ◎自然観察会「鷲羽山の春の自然」(友の会)

◆日時：2021年4月25日（日）10時～12時（受付9時30分～10時）

◆観察場所：倉敷市下津井田之浦、鷲羽山

◆集合場所：鷲羽山第二展望台（レストハウスの南）

◆交通案内：

<公共交通機関>

下電バス下津井循環線「とこはい号」利用

【往路】JR児島駅8時30分 → 鷲羽山第二展望台8時59分

【復路】鷲羽山第二展望台12時59分 → JR児島駅13時20分

運賃は大人片道220円。小人110円。バス停から集合場所まで徒歩約5分。ダイヤ、運賃は改正の可能性があるのでご利用の際はご確認ください。

（下電バス（株）086-231-4331）

<自家用車>

鷲羽山駐車場までJR児島駅より県道21号線で南下、約15分。鷲羽山駐車場より徒歩約5分。

◆講師：自然史博物館学芸員、友の会幹事

◆参加費：無料

◆定員：先着100名。小学生以下の方は保護者同伴でないと参加できません。

◆持参品：マスク、飲み物、雨具、救急用品、筆記用具、観察用具など。引き続き午後の総会に出席の方は弁当をご用意ください。

◆申込み：4月1日（木）9時～4月24日（土）17時に電話で自然史博物館（086-425-6037）まで。

◆備考：雨天決行。ただし、警報発令時の場合は中止。天候があやしい場合は当日朝7時以降に友の会の携帯電話（090-8242-3896）までお問い合わせください。当日はご自宅を出る前に体温を測り、体調に不安がないことを確認の上ご参加ください。

## ■新刊のお知らせ

★倉敷市立自然史博物館研究報告第36号

◆概要：2021年3月15日発行，A4判，88ページ

◆価格：1部1,364円（税込み）

◆掲載内容：

三宅誠治・神保宇嗣・奥島雄一・岡本泰典・並河 洋・中村剛之：昭和天皇に献上された岡山県産昆虫標本

三宅誠治：岡山県に於けるスギタニルリシジミの生息状況

岡崎拓也・亀崎直樹：山陽地方の大型河川で動画に映る魚類の比較

瀬島翔馬・末長晴輝：岡山県におけるカギアシゾウムシ属2種の記録（コウチュウ目，ゾウムシ科）

狩山俊悟：岡山県植物誌資料（21）岡山県のキク科アゼトウナ属

◆取扱い：博物館受付で販売するほか、郵送の取扱いも行います。郵送ご希望の方は在庫お問い合わせのうえ、次のとおりお振り込みください（送料着払い）。

郵便振替（振替用紙は郵便局に備え付けのものをご利用ください）

・口座番号：01340-7-100921

・加入者名：倉敷市立自然史博物館

・送金金額：1冊あたり，1,364円

※通信欄には『研究報告36号』○冊希望」とご記入ください。

お問い合わせ：倉敷市立自然史博物館 TEL 086-425-6037 FAX 086-425-6038

E-MAIL [musnat@city.kurashiki.okayama.jp](mailto:musnat@city.kurashiki.okayama.jp)（奥島雄一：倉敷市立自然史博物館）

---

---

## 【例会担当幹事より】

2020年度より夏の例会を復活する方向で動いておりましたが、その内容について皆さんの意見を集約する機会も、幹事会で意見交換する機会もコロナ禍のため確保できず、正直なところ戸惑っています。年末例会とはひと味違うものにしたいと思いますが、なかなか具体化できません。現時点で次のようなことを漠然と考えています。

①講演会（できれば外部から講師を招きたい）

②ミニ発表会（話題提供という観点から、年末例会のスライド発表より気軽にしたい）

③自由懇談会（このプログラムを夏の例会に移行し、参加者の交流を深めたい）

3月28日の幹事会で検討し、6月の幹事会で決定したいと思っています。会員の皆さんのご意見を6月の幹事会までにメールや電話等でお知らせください。（岡野貴司）

## 【事務局より】

昨年より同好会 HP へ機関誌「すずむし」155号(2020)までの総目次（Excel ファイル）および創刊号(1951)から134号(1999)までのバックナンバーを PDF ファイルにして公開しています。大いにご活用ください。

## 【交換文献】

(202010.30～2021.3.20受付分)

駿河の昆虫 (271) (272)	静岡昆虫同好会
ちゃっきりむし (205), (206)	〃
KORASANA (95)	久留米昆虫同好会
久留米虫だより (247), (248)	〃
ゆらぎあ (38)	鳥取昆虫同好会
Nature Study 66(11)～67(3)	大阪市立自然史博物館友の会
倉敷市立自然史博物館研究報告 (35)	倉敷市立自然史博物館
倉敷市立自然史博物館報 (29)	〃
しぜんしくらしき (110)～(113)	倉敷市立自然史博物館友の会
庄原市立比和自然科学博物館標本資料報告 (20)	庄原市立比和自然科学博物館
比和科学博物館研究報告 (62)	〃
比婆科学 (270)	比婆科学教育振興会
インセクト 71 (2)	とちぎ昆虫愛好会
誘蛾燈 (242), (243), supplement (14)	誘蛾会
蛾類通信 (296)	日本蛾類学会
TINEA 25 (4)	〃
横須賀市博物館研究報告(自然科学) (51)	横須賀市自然・人文博物館
とっくりばち (88)	石川むしの会
Mushi Mezuru (49)	鈴木 裕
みちしるべ (57)	岡山昆虫談話会
へりぐる (42)	瀬戸内むしの会
日本昆虫協会ニュースレター (79)	日本昆虫協会
ホシザキグリーン財団研究報告 (24)	ホシザキグリーン財団

<倉敷昆虫同好会 連絡先> 年会費 2,000円 郵便振替口座 01210-2-6927  
 〒710-0051 倉敷市幸町2-30 倉敷昆虫館内 倉敷昆虫同好会事務局  
 TEL. 086-422-8207(直通) FAX. 086-421-1991 E-メール kurakon@shigei.or.jp  
 開館：午前9時30分から午後5時まで (13:00から14:00は閉館)  
 休館日：月曜日 (祝日・休日の場合は開館し、翌日が休館)、12月29日から1月3日

